



「だいごがく 大子学のすすめ」のはっかん 発刊にあたって

だいごまちきょういくいんかいきょういくちやう 都 筑 積
大子町教育委員会教育長

平成20年3月に現行学習指導要領が実施され、今年で6年になりました。この改訂の主旨の中に「我が国と郷土を愛する」ことが盛り込まれました。これまでも、郷土愛についてはその重要性が語られてきましたが、今回の改訂でその位置づけが明確になり、様々な教育活動の中で、子どもたちに「郷土愛」を育むことが示されました。

価値観の多様化が進む今日、「変えてはいけないもの」がいくつかあると思いますが、私はそのひとつに「自分の故郷を愛する心」を考えています。

私の少年時代は、野山を走り、川で泳ぎ、日が暮れるまで友だちと過ごす毎日でした。今でも大子という母なる大地に抱かれた素晴らしい思い出が、鮮やかによみがえります。この体験が、故郷大子町を愛する心に繋がっていったのではないかと考えています。

郷土を愛するという事は、自分の故郷に自信をもつことだと思います。さらに、そのことによって、自分自身にも自信がもてるようになるのではないかと考えています。そして、郷土愛は、自分自身を愛することに繋がり、同じ故郷をもつ人々を愛することになるのだと考えます。一方、大子町においては、これまで小学校3年生、4年生の社会科の中で、大子町の自然や歴史、産業、文化などについて、副読本「だいご」を活用して学んできました。

しかし、郷土を愛する心をしっかり子どもたちに育むためには、これで十分であるとは言えません。全ての教育活動の中で、大子町の素晴らしさを子どもたちに伝えていかなければならないと考えます。特に、平成23年3月11日の東日本大震災では、そのことを強く感じました。

そこで大子町教育委員会では、大子町に関する郷土学習を義務教育9年間の中に位置付け、様々な角度から故郷大子町に関する学習を充実させるために「大子学のすすめ」を作成いたしました。

この「大子学のすすめ」は、小学校1年生から中学校3年生までそれぞれの学年に応じて、大子町のよさが感じられるように工夫いたしました。大子町袋田の滝のキャラクター「たき丸」から自然や歴史、産業、文化まで、子どもたちが親しみながら調べたり、まとめたり、ふれたりする学習をたくさん取り入れました。また、教室の中の学習だけに留まらず、地域に出て学ぶなどの機会を工夫いたしました。

郷土愛を育む学習は、地域から学び、身に付けていくものだと思います。子どもたちが歓声を上げながら、大子の様々な場所を歩き、探索する機会が増えることを切に願っています。

大子町の学校教育目標は「ふるさと大子を愛し、賢く、豊かに、逞しく生きる子を育てる教育」です。これからも郷土愛を育む学習が「大子学のすすめ」を活用し、単なる知識を増やす学習ではなく、故郷大子を見つめ、心から愛し、地域発展に自分自身が積極的に貢献していこうという気持ちに繋がることを心から願っています。

結びに、この冊子の編集に携わった9人の編集委員の先生方に深く感謝の意を表し、発刊のあいさつといたします。